

地域のかお シリーズ 88

「SDGs～子どもの未来のために～」

旭町児童クラブ

放課後児童支援員 合志 純子

旭町児童クラブの合志と申します。旭町児童クラブで子どもたちと過ごして5年になります。広瀬地区にはご縁があり、以前広瀬小学校に6年間勤務しておりました。当時は下校時に、地域の老人会の皆様の見守り活動に大変助けていただき、とてもお世話になりました。私は現在、宮崎県ユニセフ協会の事務局職員として、ユニセフの広報活動も行っています。今回、この機会をお借りして、ユニセフと「SDGs」についてご紹介したいと思います。

ユニセフは196か国が批准している「子どもの権利条約」に書かれた子どもの権利を守るために活動しています。子どもの権利とは「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」の4つに分けられています。旭町児童館が、子どもたちの権利や自由、安全を保障し、遊びを通して子どもの健全な成長を促していける場を提供していることは、この子どもの権利を守る活動を進めているユニセフの活動と一致する部分があります。

平和な日本では、病院に行くことも、学校に行くことも、いろいろなグループに参加することも、普通に行われていることです。しかし戦争に巻きこまれて家をなくし、テントで暮らす子どもたち、病気で命を失ってしまう子どもたち、学校にも行けずにつらい仕事を一日中しなければならない子どもたち、世界中には権利が奪われている子どもがたくさんいます。紛争、自然災害、感染症の蔓延、貧困・・・いつも犠牲を強いられ、命の危機にさらされるのは子どもたちです。世界は今、多くの課題に直面しています。このままでは、安定してこの地球上で暮らし続けることができなくなると心配されているのです。

そんな危機感から、世界中の様々な立場の人々が話し合い、課題を整理し、解決法を考え、人類がこの地球上で安心して暮らし続けていくために2030年までに達成すべき目標を立てました。それが「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals) SDGs」です。SDGsは、みんなが、この地球上で暮らし続けられる「持続可能な世界」を実現するために、進むべき道を示したナビのようなもので、17の大きな目標と169のターゲットから構成されています。2015年に採択され、近年新聞やTVでも取り上げられるようになりました。小学校の教科書、中学校の英語の教科書にも取り上げられています。そして子どもたちは、自分たちの未来を守るために、自分にできる取り組みを始めているようです。

例えば【目標11】について考えてみましょう。

【課題】 過去40年にわたって、人々が住む家を失って、避難や移住をしなければならなくなるような自然災害の発生件数が大きく増えています。

11 住み続けられるまちづくりを



【目標】 だれもがずっと安全に暮らせて、災害に強い街を作ろう

【達成目標】 2030年までに、大気の水質やごみの処理などに注意をはらうなどして環境に与える影響を減らす

これらの目標を達成していくために、個人ができる取り組みとして、①節電節水を心がける②できるだけ歩くか自転車または公共交通機関を使う③ゴミ出しの袋を小さいサイズにする④ゴミをきちんと分別して処理する⑤リサイクルを積極的に行う⑥フードロスが減らす・・・等々できることは他にもいろいろあります。平和で安定した地球環境を整えていくためには、国や企業はもちろんですが、私たち一人一人の取り組みがとても大切です。目標達成の期限は2030年12月31日です。今日からでも遅くありません。日頃の生活を見直してみましょう。